

令和7年度 第3回まちづくりミーティング

令和7年8月20日（水）18時30分～

末浄水場 1階 見学室

内川、犀川、湯涌、東浅川、医王山校下（地区）

(1) 市長あいさつ

【村山市長】

皆さん、こんばんは。平日の夜の非常にお疲れのところだと思いますけれども、まちづくりミーティングに参加いただきましてありがとうございます。

このまちづくりミーティングでは、各地区の抱える課題について、地区と金沢市とで一緒にあって考え、そして課題を共有していこうということ、そして、解決策に向けて一步でも前進できればと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

(2) 地域代表あいさつ

【犀川地区町会連合会長】

お盆が過ぎまして、本当に暑い日がまだまだ続いております。本日はタウンミーティングということでございまして、5地区の中山間地の同じような地域の中で、同じような課題や問題があるのかなと思っておりますので、後ほど各地域の問題等出ていることをアセスメントいただきまして、解決していただければと思っております。

本日はよろしくお願ひいたします。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、協議

①コミュニティバスの通学バスとしての運行について（内川校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【内川校下町会連合会】

地域課題として、コミュニティバスの通学バスとしての運行についてということで、現状と課題ですが、当校下のコミュニティバスは、市の地域運営交通運行費補助制度を活用

させていただいて、地区の高齢者の通院や買物と、特認校である内川小中学校の通学する児童生徒の通学バスとして利用させていただいております。

本題に入る前に、内川のコミュニティバスの現状について説明しますと、内川のコミュニティバスは、平和タクシーさんに業務委託をさせていただきまして、平成24年度から試行を始め、26年度から本格運行をさせていただいております。

乗車人数といたしましては、26年当初では1,200人ほどだったんですが、近年は3,000人から4,500人ぐらいの利用というふうになっております。

そんな中で、事業費としての委託料は、当初年間100万ほどの委託でしたが、昨年は自主運行も含めて300万ほどの事業費になっております。それに伴って地元負担も100万円程度の負担がかかっているのが現状です。

ただ、この制度を活用して特認生を増やし地域を存続させようという趣旨でございますので、当初、24年の段階では特認生12人でしたが、近年は20数人から30人、多いときで38名来ていたときもあります。

そんな状況で、我々がコミュニティバスを運行しておりますが、そんな中で課題ですが、このコミュニティバスは、当地区から平和町までと、杜の里の商業施設までというのが補助対象となっておりますが、特認生が今ほども言いましたようにいろんな要望がありまして、南部のほうから来てくれる子に対しては伏見台方面まで、あるいは杜の里から足を伸ばして太陽が丘から来てくれる子、あるいは隣の犀川から来てくれる子、それらについては、それぞれ延伸部分については補助対象とならず、自主運行ということで運行経費も含めて地元で交付しております。

また、同じ方面から小学校の低学年、高学年、中学生とそれぞれの年代の子が通学してくれているケースがありますが、この中で帰りが1時間ずつぐらいのずれがあって、以前でしたら学校で待機させてくれるというような状況があつて、先生方も協力して見守りもしていただいておりましたが、近年はそのスタッフに人員が割けないということで、昨年の途中から特に便数が増えてきてまして、同じ方面ですが、タクシーに1人ずつ3回運行するようなケースが出て、1回は補助対象なんですが、2回は自主運行というふうなことになっておりまして、我々の地元の負担が増える一つの要因となっています。

そして、何とかこれを解消するのに、地域でも公民館等で人員を確保して、その時間差の面倒を見るというふうなことも考えていますが、学校ではありませんので、場所の移動であつたり、新たな出費が重なつたりということで、保護者の理解も得る必要があること

から、現状では実施に至っておりません。

そんな中で、我々内川校下としては、学校の存続は地域の存続に直結するというふうに考えておりまして、その中でコミュニティバスの運行は必要不可欠なものと考えています。

加えて、内川小中学校に通学する子供たちは、それぞれの居住する校区の学校に通学できない子供も多くいて、自然の中の小規模校で元気に通学してくれている子が毎年たくさんいます。そんな子供たちの居場所づくりというふうなことも我々は考えて運行をさせていただいているので、ご理解いただければと思っております。

こういうことで、公共交通のない方面の自主運行路線の伏見台、太陽が丘、犀川等の路線の補助対象路線への繰入れや、時間差あるいは学年の途中から転入して子供が増えたりして、当初計画以上の便数になったとき、あるいは積雪時に、内川は雪も多いので送つてくる保護者が、今日はコミュニティバスに乗せてほしいというケースも多々ありますので、利用者が増えた場合の増便に対する、自主運行にならないような支援もぜひ検討をお願いします。

【古谷交通政策監】

本市では、公共交通の不便な地域において、通院や買物など日常生活に必要な移動手段を確保するため、地域運営交通が各地域によって導入されております。現在、内川地区をはじめ市内4地区で導入をされており、本年4月からは、大野地区でも試験運行が始まっています。

市としては、先ほど連長さんからもありましたように、地元の方々とお話しする中で、地元の負担の軽減のために、運行経費の上限額の撤廃であったり、また本地区ではございませんが、協賛金収入の地元負担への充当など、いろいろな支援制度の拡充にも努めてきたところでございます。

内川地区では、平成24年度から導入されており、内川小中学校の児童生徒にも利用されております。利用者数の人数は、年度途中で増減があるため、昨年度は、車両1台では賄い切れない利用者に対応するための増車を補助対象に追加させていただきました。市としても、制度の柔軟な運用に努めているところです。

引き続き、内川地区における地域運営交通の取り巻く環境の変化に対応するとともに、持続的な運行が可能となるよう、個別具体的な事案について相談させていただきながら、ど

のような支援が可能なのか、これまでと同様、検討させていただきたいと考えています。

また、いろんな地域に経路を増やせないかという話がありましたので、地域運営交通の制度について少しお話させていただきます。

地域運営交通は、買物であったり、通院であったり、地域の足の確保ということになるが、いろいろなルールを設定しており、その一つに、区域外に運行経路をなるべく設定しないということがあります。これは、既存の路線バスや、タクシーなど、様々なモビリティが現在存在しているということからです。そこで、区域外に運行経路を設定しない。ただし、必要最小限の医療機関、商業施設、こういったものの場合は認めることとしており、今、田上のはうであれば、イオンに行っております。地域に商業施設がないから、田上に行くという考え方をしています。区域外の停留所等はそのようなルールがあることをご理解いただきたいと思っています。

また、子供たちの帰る時間がずれるため、例えば1時間ごとに運行するタクシーを全て補助対象にしてほしいという要望について、これも運行計画の当初から、行き、帰りということで、運べない人数につきましては増車を認めていますが、様々な時間に運行するのには難しいことをご理解いただきたいと思います。

ただ、先ほども申したとおり、個別具体的な事案について、いろいろな状況も変わってきますので、これまで逐次情報交換をしながら進めてきましたので、今後とも相談させていただき、どのような支援が可能なのか検討していきたいと思っています。

(追加質問①)

【内川校下町会連合会】

今ほどのお話の中で、子供たちの中でも中学生の部活動の地域移行は。あと6年たてば完全に移行することになっていますが、まだ金沢市とすれば移行途中かなと思っています。

その間、内川の中学生の特認生たちが、タクシーがないので部活動に入れないという子どもが何人か出ております。学校の教育活動である部活動ができないというのは、残念なことでありますので、そのことも、ぜひ前向きに検討をお願いしたいと思っております。

【古谷交通政策監】

地域運営交通の主たる目的は、地域住民の通院、買物等であり、当該地区では、それに

併せて通学利用も対象とする運用をしています。全ての生徒の皆様のバラエティな時間に合わせることは難しいことを理解いただきたい。

現在の特認生の通学利用につきましては、主たる目的の一部例外ということで、必要最低限の運行対象としていることをご理解ください。

【村山市長】

全市的にというか、全国的に運転士不足という中で、特にバスの減便が相次いでいます。また、路線の廃止も行われているという中で、より運転士の確保が喫緊の課題となっている中で、この内川地区においてはいち早く地域運営交通に取り組んでいただいているということだと思います。

今ほどご指摘いただいた課題、また、バスの転用等々ができるのかどうかというところ、ここはずっと課題として捉えておりますので、また個別に相談をさせていただきながら、課題が一步でも進めるように考えていきたいと思っております。

②住みよい街へ～不法投棄　違法ごみを無くそう～（内川校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【犀川地区町会連合会】

犀川地区は、約1,400戸がありますが、多くは末町と辰巳町に居住しております。そのほかは山間部にあるところが多くて、世帯数が1桁の集落も10か所程度ございます。末町は学生が多く、とてもにぎわっているところもございますが、ごみ出しのマナーですが、特によくないと思います。学校の近くの寮とかにはごみステーションが随時設置しておりまして、好きなときに好きなものを出せるような形を取つてあるところもあります。

また、埋立てごみや資源ごみの回収日には、毎回、当番制で見張りもしているような形を取っていますが、油断していると収集してもらえないものをそつと出していくケースも後を絶ちません。

季節によっては布団や毛布、混合ごみが多く、数多くごみステーションに出されることもあり、町会役員がまとめて埋立場、戸室のほうに持つていけるものは持つていっております。

また、山間部、山のほうでは消火器とか充電式ドリルのバッテリーなどの機材の不法投棄もありまして、一部防犯カメラも設置したところもありますけど、費用もかかり、管理もできないようなところも多くて、困っておるというような次第でございます。

不法投棄係もいますが、常時の監視は難しく、マナーの悪質なステーションにはダミーカメラの設置により、多少の抑止力とはなっているように思いますけど、本来は個人的にマナーを守ることが大切であり、地域からも学校に依頼もしていますけど、市のほうにおいても大学、学生に向けての直接の啓発をはじめ、年度替わりなどのシーズンにおける要らないものを出して引越ししていくというようなことが多くて、結構巡回も強化するなどはしていただけないかなと思っております。

そのほか、地域でもできるだけ効果的な対策があれば指導していきたいなと思っております。

【越山環境局長】

学生に対するごみ出しマナーの啓発についてですが、新入学の時期に市内の大学などと連携して、ごみ出しルールについての新入学生の学生説明会の開催やパンフレットの配布を行っており、犀川地区にある大学に対しても説明会を行っております。また、引越しシーズン前には引越し時のごみ出しルールについてもチラシを配布するなど、学校を通じて周知を図っているところでございます。

さらに、新たな取組として、学生と協力し、若者ならではの着眼点からごみ出しマナー向上を啓発する動画を制作し、その動画をSNSで発信するなどの取組も行っており、引き続きごみ出しルールの周知徹底が図られるよう、啓発活動や巡回指導の強化に努めたいと考えております。

地域でできる効果的な対策はないかというご相談でございますけれども、なかなか効果的な対策というのは難しくて、違反ごみを出させないようにするためにには、これらの継続的な啓発活動はもちろんのこと、町会などによるごみステーションの適正な維持管理が大切だと考えています。

市としましても、地域の実情をお聞きしながら、違反ごみの多いステーションでは啓発看板の設置や監視カメラの貸出し、職員によるごみステーションでの立ち番指導なども実施しておりますので、一度、担当は西部管理センターになりますので、実情もお話しいただきながらご相談いただければと思っております。

(追加質問①)

【湯涌校下町会連合会】

湯涌校下でも、町会連合会と交通防犯協会が協力して、年に春と秋に不法投棄の見回りのパトロールをしておりますが、一向に不法投棄が減らないような状況なんですけれども、金沢市としては不法投棄に対してどのような対策をされているのか、教えていただきたいです。

【越山環境局長】

山間部の不法投棄につきまして、本市では、地域に不法投棄防止対策推進員を委嘱させていただいておりまして、その方や、あとは職員による継続的な監視パトロール、それから不法投棄発見時に速やかにそれを取り除いて、そこにどんどん捨てられていかないような対策を取ったり、あとは捨てられているところには啓発看板、それから監視カメラの設置などを実施しております。

3月でしたけれども、桐山町のほうで3,000本のビール缶が捨てられている事件がありました。そこに監視カメラを設置しまして、犯人が逮捕されるということもありますので、いつも捨てられるようなところがあれば、直接市のほうにご相談ください。我々が状況を見に行って、監視カメラを設置したり、看板を設置したりして対策を取っていきたいと思いますので、そのことについても具体的な事例を、場所を言っていただいてご相談いただければと思います。

(追加質問②)

【湯涌校下町会連合会】

今、看板の話も出ましたけど、今の看板自体がすごく固いイメージと、結局、美大もあるのにもうちょっとデザインがちょっと、見てくれというか、それ自体が何かいいなと思うような看板やつたらいいなと思うんですけど。かつ抑止力になればいいんですが、今の看板がそれ自体がすごく、言い方は悪いけど目障りになるというか、非常に醜い面があるんじゃないかなと思うんですが、どうでしょう。

【越山環境局長】

デザイン性より実用を取っておりますので、なかなかそういう形になるかどうか分かりませんけれども、取りあえず捨てていただかないということが大切かと思っておりますので、どういう形がいいのかということはまた引き続き検討させていただきたいと思います。

【村山市長】

大学生のごみ出しルールについて、成年になる年齢は18歳なので、成年としての自覚というのは一番大事かなと思います。これは大学を通じても呼びかけていきたいと思っています。

一方で、県外あるいは市外からこの地域に来ている方というのは、初めての転居になる場合も多いと思います。私、もともと転勤族だったので、転居をしてみて初めて自分の自治体のルールがほかの自治体とは違うということに気づきました。ごみ出しルールは自治体によって本当に違うんですよね。そういうことを分からぬまま転居してきて、転居して一番先に大事なことは、自分の家の周りを整えて生活をする中で、そこでもごみはたくさん出できます。家電を買ったり、いろんな生活用品を買ったりして、そのパッケージがあったりというところのごみ出しの一番最初のところが守られないというところは課題かなと思っています。

市役所でもそういったことに留意をしながら、啓発を進めていきたいなと思っております。

あと、不法投棄の看板についてですけれども、抑止力とデザインの両立ができるようなものがないかということ。これは、これから考えてもいいかなと思いますので、ぜひ検討の一つにさせていただきたいと思います。

③金沢湯涌みどりの里の有効活用について（湯涌校下）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【湯涌校下町会連合会】

湯涌地区にある金沢湯涌みどりの里は、市民が自然に楽しみながら農林業への理解を深めることを目的に、農林業の振興及び周辺地域の活性化に資する施設として運営されています。

るが、現状は十分に活用されているとは言えません。

近くに湯涌江戸村や湯涌の温泉街があり、立地にも恵まれていることから、市民はもちろんのこと、観光客などにも利用してもらえる施設として有効活用ができるないかということが現状の課題でございます。

補足でございますが、湯涌地区は平成5年度より金沢市の中山間地の活性化のモデル地区に指定されました。それで、当地区は早速まちづくり推進委員会を立ち上げ、現在に至っております。主に農業、観光、そして学校、市街化調整区域の緩和ということに着眼して、この2年間に会議の回数は数知れないほど死に物狂いでやっております。もちろんその間、行政のご協力もいただいておりますので、本当にそこは感謝申し上げたいと思っております。

そこで我々は、観光分野で平成20年度の浅野川の水害では、仮設住宅の設置場所として活用された実績を踏まえ、近年頻発する災害の備えとして、防災機能を備えた施設整備を検討いただきたいと思っております。

また、平常時には自然環境や地域の特性を生かし、地域地味の交流拠点となるコミュニティ広場やRVパーク、キャンプ場、バーベキュー場などのアウトドア施設として活用することで、地域内外からの来訪者増加や地域の活性化が期待できるのではないかと思っております。

施設の価値向上にもつながると考えられるために、前向きにご検討いただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【紙谷農林水産局長】

本市では、平成14年度に金沢湯涌みどりの里を開設いたしました。以来、市民農園の運営や地元の農家で構成をするファームみどりの里組合によりますそば打ち体験、農産物加工品の手づくり体験教室、朝市の開催など、都市と農村の交流を推進するため様々なイベントを実施しております。そして、これらのイベントには毎年多くの市民の皆様に御参加をいただきしており、地域の活性化に寄与しているものと考えております。

ただ、近年は新型コロナウイルス等の影響もございまして、イベント等への参加者は減少傾向にあると考えておりますけれども、そのような中、昨年度からは新たな取組といたしまして実施をしております芝生広場でのキャンプイベントにつきましては、おかげさまで募集定員よりも多くの方々から応募をいただいております。ご好評をいただいていると

ころでございます。

今後も多くの方にご参加、そしてこのみどりの里を利用させていただきますよう、今ほどご提案のありましたことも含めまして、施設の活用方策について検討してまいりたいと考えております。

なお、湯涌みどりの里につきましては、大規模災害時の応急仮設住宅の建設可能用地の一つとして考えておりますことから、ご提案の防災機能を備えた施設整備までは考えていなことをご理解いただきたいと存じます。

(追加質問①)

【湯涌校下町会連合会】

地域の方から子供たちがもう少し集えるような、遊具を設置したような公園とかがあつたらいいなという声もありまして、みどりの里にそういった遊具を設置するようなことはご検討いただけないのでしょうか。

【紙谷農林水産局長】

遊具の設置につきましては、まず安全性の確保、様々な観点がありまして、設置するに当たってもいろいろな課題があろうかと思います。ただ、湯涌みどりの里の有効活用という中では、幅広い世代の方が利用していただくということも大きな目的ではございます。

設置の目的といたしましては、都市と農村の交流ということありますので、先ほどの繰り返しになりますが、これまでそば打ち体験であったりとか、いわゆる山間地に来て農村のよさを体験していただくということがまずは一番の目的かなというふうに思っておりますので、その辺のところはしっかりと地域の方々と協調しながら、先ほどのご提案も踏まえながら、活用策について検討してまいりたいと思っております。その中でご提案の遊具の設置等についても、いろんな課題があろうかと思いますけれども、今後検討できればいいかなと思っております。

(追加質問②)

【湯涌校下町会連合会】

都市と農村の交流が目的ということなので、例えば森の幼稚園みたいな、小さなお子さんとかと地域の人でそういう交流をするようなイベントといいますか、そういったことに

活用することは可能でしょうか。

【紙谷農林水産局長】

今ほど森の幼稚園ということでご提案をいただきました。本当にありがたい提案かなと思っております。

まさに農村と都市の交流という中で、まずまちに住んでいる方に農村のよさというのを理解してもらうということは非常に大事だと思っておりまして、その延長上で森の幼稚園というのも一つの要素であるかなと思っております。

ただ、森の幼稚園ということですけれども、これ実は来年度、東浅川地区になりますが、旧東浅川小学校の跡地を利用して、市民と森をつなぐ拠点施設の整備を考えております。来年開設に向けて、今、工事に間もなく着手ということでございます。ここも幅広い世代の方々に利用していただける施設にしたいと思っておりまして、そういった中で森の幼稚園的な、いわゆる乳幼児の方も楽しめるような、森に親しめるような施設の整備を考えております。そちらのほうも利用していただけたらと思っております。

(追加質問③)

【湯涌校下町会連合会】

みどりの里の目的外使用というのは、農林に関係したものだけなんですか。その目的外使用、今の森の幼稚園なんかにしても、それは申請すれば中の施設は使える、あるいは別に何か用途のものを造る予定があるとかないとかという部分なんですが。

【紙谷農林水産局長】

目的外使用といいますか、そもそも湯涌みどりの里の施設の活用の中で、これは本来の目的の中で何ができるかという視点が大事だと思っております。

森の幼稚園というのは、一つのご提案ということでございますので、そういった本来の湯涌みどりの里の施設の活用の中で、そういった要素を取り入れられたらいいのかなというふうにも思っております。

そこのところは地元の方々としっかりと協議をしながら対応していきたいと思っておりますし、目的外使用という概念というよりも、いかに湯涌みどりの里を有効に、多くの方に利用していただくか、そのところが大事だと思っておりますので、そこはしっかりと

と検討してまいりたいと思っております。

【村山市長】

まず、湯涌みどりの里について、かなり高い関心を持っていただいていることに感謝を申し上げます。そして、あの施設があまり使われていないと思われるのだとすれば、より使われるよう活用の方法を一緒に考えていきたいと思いますし、何より都市と農村の交流施設という言い方をしていますけれども、使っていただくことが第一だと思っています。その中で、交流の拠点となればいいなと思っています。

遊具を置くことについては、先ほど大規模災害時の応急仮設住宅の建設可能地としていうこともあるので、大型遊具を据えてというところまでは難しいかと思いますけれども、それも使える範囲の中でどういったことができるかということは、まだまだ可能性があると思いますので、ここはご意見をいただければと思います。

④空き家、耕作放棄地対策について（東浅川地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【東浅川地区町会連合会】

私たちの住む東浅川地区は、これまで市街化調整区域として、本来の市街化抑制の役割を担ってまいりました。しかしながら、近年、空き家や耕作放棄地が目立つようになってきているのが現状です。

空き家については、少子化が進んだことや核家族化に伴う中間世代の市街地での独立、またその下の世代では、都市部への進学、就職によりさらなる地元離れが進んでいるのが現状です。

耕作放棄地についてですが、当該地区はほぼ中山間地に属しており、農業は100%兼業農家で、前述の少子・高齢化による担い手不足と近年の機械化農業による経費の高額化に伴う離農者が急増しており、この先10年後には現放棄地が数倍に広がることは避けられない想像されます。

この状況に並行して、イノシシや熊など獣害被害も深刻化しているのが現状です。地域の日常生活にも影響を及ぼすようになってきています。

それに関して、地域が考える対応策とか解決策、協議したいことです。

まず1番目に、空き家対策について。金沢市では、各種の空き家対策事業を行っているようですが、事業の利用状況をお聞かせ願いたいのと、当該地区に即した対策があればお聞かせ願いたいということです。

2点目については、耕作放棄地対策について、現在の状況は、今の社会情勢からしてなかなか避けられないものだと考えられます。一案として、この耕作放棄地のある箇所に一団の土地として集積し、多種多様な業種の活用地とすることができないかということなんです。例えば、近隣の農作物の販売所とか、湯涌福光線の開通を想定した例えは道の駅とかいうところを、私どもの湯涌とのちょうど中間地になるものですから、そういう道の駅とかそういうものが、今後の何かしらの活用方法などがありましたら、どこまで私どものそういうところができるのかということを教えていただければと思います。

【高木都市整備局長】

空き家対策について回答させていただきます。

市では、平成27年度に空き家等の総合相談窓口を開設いたしまして、空き家の適正管理と活用、この両面から対策に取り組んできました。

また、今年の3月には、市で策定しております空き家等管理活用計画を改定して、1つには活用の拡大、2つ目に管理の確保、そして3つ目に特定空き家と呼んでおりますけれども、危険な空き家の除却、この活用、管理、除却という3つの柱で総合的に対策を強化しているところでございます。

1つ目に申しました活用の拡大ということにつきましては、宅建協会さんや不動産協会さんなどを含めて11の専門団体と連携して、空き家の活用や流通に関する様々な相談に対しまして解決策を提案しております。これまでに101件の相談を受けまして、そのうち65件が売却されるなどの解決に至っております。

また、先般、7月末に空き家の管理や活用を支援する法人の指定を行いまして、この8月から3つの法人でございますけれども、業務を開始しておりますので、その法人とも連携をしながら、さらなる活用の拡大を目指しているところでございます。

地区に即した対策をというお話をございました。東浅川地区につきましては、その大半が市街化調整区域でして、一定のルールの下でということになりますけれども、空き家を住宅として、あるいは地域資源である農産物を活用した飲食店として、さらには日用品

を販売する店舗ですとか、地区の集会所などとしても活用することができます。特に地域資源である農産物を活用した飲食店につきましては、その飲食店を経営する事業者の方、それから生産者、そして利用者など多くの方々が関わることで地域資源の魅力や価値の再発見につながると思っていますし、また、空き家の利活用とともに地域コミュニティの活性化も図られる可能性があると考えています。

一方で、空き家を集会所に活用する場合についてですが、町会と所有者と市、この三者が協定を締結しますと、改修費用の3分の2を限度額100万円として町会に補助できる制度がございます。また、空き家を解体してポケットパークなどに整備する場合もこの制度を適用することができまして、その空き家に一定の危険度が認められるものに限りますが、解体費用の2分の1を限度額50万円として所有者の方に補助することができますので、ぜひご相談、ご利用いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

【紙谷農林水産局長】

耕作放棄地対策についてご説明をさせていただきたいと存じます。

全国的にも毎年耕作地が減少しているところではございますけれども、本市におきましては、中山間地域における農地を維持するために、国の多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払制度を活用するとともに、市独自に新規就農者や異業種の農業参入者を対象とした耕作放棄地を農地として活用するための基盤整備への支援を行っているところでございます。

ご提案の耕作放棄地の集積につきましては、集落内での調整が必要となるなど課題が多いと考えておりますけれども、農作物の販売所の設置につきましては、本市において中山間地域の朝市・直売所の新規開設に向けた助成制度を設けているところでございます。ぜひこの制度を活用していただければと考えております。

また、湯涌福光線開通を想定とした道の駅のご提案ございましたけれども、開通後に交流人口が増加することも見込まれますことから、その必要性については引き続き勉強させていただきたいと考えております。

(追加質問①)

【東浅川地区町会連合会】

今ほどの耕作放棄地の件なんんですけど、全国的に結構移住者がテレビでも、NHKなど

でもいろいろやっていますけれども、例えば農業をやったことがない人がどこかへ移住して、例えば我々みたいな中山間地域へ移住して、農業をやりながら移住したいなという場合、農地を持っていなくて農業者でもない人は農地を取得できるのでしょうか。例えば、取得するに当たって、金沢市は何平米以上とかという、そういう規制というか枠があるのかということをちょっとお聞かせ願いたいなと思うんですけど。

【紙谷農林水産局長】

農地を持たない方が新たな農地を取得ということでございますけれども、農地法という法律がございます。その中で、以前はかなり新たに農地を取得するというハードルは高かったです。何平米かというのは、すいません。今ちょっと資料を持ち合わせていないんですけれども、農地法はかなり制限が緩くなりまして、比較的新規の方の農地取得というのは、以前に比べてしやすくなっています。

金沢市といたしましては、まずいきなり移住して来られて農業をするというのは、これはなかなか難しい話でございます。家庭農園とかそういったレベルであればできるんですけども、本格的に農業を実施するということになると、それなりの知識が必要になってまいります。本市では、下安原のほうの農業センターに農業大学校を開校しております、市内全域から受講生を募集し、2年間でございますけれども、経験を積んでいただいています。大学校に入っている中で、実際に農家をされている方々との触れ合いといいますか、交流を深めながら、就農に向けて取り組んでいくというようなこともしておりますし、実際、修了後も多くの方々が農業に従事されているというところでございます。そういったことも含めながら、もし中山間地に来て農業をしたいという方がいらっしゃいましたら、こういう制度もございますので、ぜひとも農林水産局にご連絡をいただければと存じております。

(追加質問②)

【犀川地区町会連合会】

中山間地域の直接支払制度があるというお話をしたけれども、実は今年、第6期がスタートしまして、今までの第5期の制度よりも中山間地域の支払いの内容が厳しくなったといいますか、従来までは田んぼを起こさなくても雑草を刈っておけばいいという内容で補助金を頂いておったんですけども、第6期、今年度からの分につきましては、田んぼを

1年に1回起こせとか、それからあぜがないと支払いできんとかという内容に変わりました。

山手の田んぼができないという理由は、田んぼへ入れないとか、山から水が湧いているとか、それから稻作をしてもあまり収量が少ないとかという理由で作れない田んぼがいっぱいあるんですわ。それを村の人が共同で今までやっと管理しておったんです。それができないがために耕作していなかったものに対して村で管理しておったものが、新しい制度になったために、もうお金要らんからやめたというように、私の村の中では変更する人がいっぱい増えてきたんです。

ということは、やっと今まで中山間地の維持管理をしてきたのにそれができなくなるということで、何とかその制度を市のほうで、わずかでもいいですから補助金が出ないかなというふうに思っています。何とか出せないのかというところをご検討いただきたいと思います。

【紙谷農林水産局長】

中山間地域の直接支払制度、これは国の制度でございます。生産条件の不利な中山間地域において耕作放棄地の発生防止や、多面的機能の確保のために、集落で共同により農地等を保全する協定を締結して、その協定に基づき、農地の耕作や農道、水路の維持管理を5年以上行う集落協定をしている団体に対して交付する制度ということでございます。

そういう中で、金沢市においても、国の制度を運用しているところでございますけれども、一方で今ほどお話のありましたとおり、高齢化も進む中で担い手もいないという中で、田んぼを維持することも難しいことも十分把握しているところではございます。そういう中で市で補助金の上乗せということは、この場ではすぐには回答しづらい部分はございますけれども、課題であるということは十分承知しております。

そういう中で、市として何ができるかということについては、検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

【村山市長】

まず、空き家のほうも耕作放棄地についてもそうですけれども、これから放っておくどんどん増えていく。これは各地区でも高齢化が進んできて、その後をどうするかということをしっかりと道筋を立てないままで施設に入られたりという形になっていくと、ます

ますひどい状況になってくると思っています。

まず、空き家については、空き家を生み出さない努力が必要ということで、対策を都市整備局では考えておりますけれども、ぜひそのような形で、各世帯に対しても呼びかけていただければと思います。なかなか終活をするということに向くと動きづらいところはあると思いますけれども、ぜひ今後どうしていくかということ、これは各集落あるいは各家庭のほうで考えていくべき話であると思っています。

他の地域からの移住者なども今多く来ている中で、中山間地域で移住したいという方も非常に増えてきております。さらにこれが金沢の中山間地域であれば、市内までもアクセスは非常によいということで、一つのメリットがある、魅力があるというふうにも捉えています。そういう方々のニーズを逃さないように、市としても動いていきたいと思いますし、また、各地区にいらっしゃる地域おこし協力隊の方なども一つのネットワークというか、つなぎ役にしていただきながらご相談いただければと思います。

なかなかここは解決策がきれいに出る問題ではないところではありますけれども、また情報共有をさせていただきたいと思います。

⑤中山間地域における担い手の確保について（医王山地区）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参照願います。

【医王山地区町会連合会】

中山間地域に位置する当地区は、高齢化、人口減少などから農業従事者の減少が続いています。耕作条件の厳しいことから（特に傾斜地とか山影など）条件の悪い農地は耕作放棄がどんどん増えている現状です。

また、先ほどお話があったような集落協定、第5期まで進んできました。6地区で進めてきましたが、第6期に至っては4地区に減ったというようなことがあります。共同作業や営農組合の法人化などがなかなか集団化しづらいというようなことも現状であります。

また、地域活動、現在でも市道や農道、林道の除草、農業施設の管理などをやっておるんですけども、その継続は暗澹たるもので、集落像が描ける状況にはありません。

具体的な例をちょっと説明しますと、皆さん御存じないかもしれません、石川県内には水稻の種場というのが実は4地区あります。小松、白山、金沢、羽咋。金沢では医王山地

区で唯一種を作っている種場になります。昨年で50年たちました。先輩方の汗と知恵の結晶で50年間続いたのかなと思いますが、実はこの数値も惨憺たるもので、今から10年前、2015年（平成27年）当時は作付面積が41.5ヘクタール、約400筆。筆というのは田んぼの枚数というふうに考えてください。田んぼが400枚ありました。それで、生産者数が51人いました。それが今年、2025年には作付面積が31ヘクタール、生産者数は36人。面積で25%の減少、生産者数に至っては30%の減少。種子協会といいまして、石川県全体で種子を取りまとめている協会がありまして、そこと契約を結んで我々生産をしているわけですが、年間でいうと5,000万ぐらいの売上高がありまして、大きな収入源となっておりますし、医王山地区だけではなかなか生産者が貢えない中で、三谷地区の農家の方にも応援をいただいて、何とか面積を確保しているような現状がございます。

そこで、我々のほうで考えている地域が考える対応策についてなんですけれども、なかなかこれまで土地改良事業であったり、災害復旧事業、特に能登半島地震では市長さんの英断で負担金がなしというようなことで、結構たくさんやっていただきまして、本当にありがとうございました。

ただ、そうは言いながら、まだまだやっぱり不十分なところもあって、耕作放棄にもつながるというようなことなので、できたらもう一歩踏み込んだ支援事業をお願いしたいなと。

例えば、清水町では8世帯の家で、年間で土地改良事業は1集落1事業というルールがございます。二俣では110世帯ぐらいあるんですけども、そこでも1事業ということで、ちょっと格差があるというようなことで、そういったことももう一歩踏み込んだ新しい支援事業の創設というようなことを土地改良事業についてはお願いをできないかなということが一つ。

もう一つは、ちょっと大きなテーマにはなるんですが、町会単位、特に私どもの二俣でも田島でも一緒なんですけれども、町会役員の成り手さえ実は非常に苦慮しているような状況でございまして、そんなことから、農地の保全や農業生産だけでなく、町会機能の維持も難しくなるような状況から、何か地域課題を解決するためにいろんなトライはやっているんですけども、なかなか花を見ない、実現できないというようなことで、もっと広域的な連携が必要なのかなというようなことを実は最近考えています、一体的に支え合う組織づくりというようなものが必要なのかなということ。

ちょっと私、ネットとかでいろんな先進事例なんかを見ていましたら、農村型地域運営

組織、通称農村RMOというやつです。これまでの農林水産省だけの補助でなくて、総務省であったり、国土交通省であったりという、いろんな省庁をまたいだような補助事業が、実はこれもあと2年か3年で終わりだというようなこともちょっと聞いていまして、ちょっと時間切れのところもあるのかもしれません、抜本的な解決にはならんかもしけんけれども、地域のこういった実情に行政も寄り添っていただいて、連携、相談しながらそういった取組を進めていただけんかなということを、町長になって町会の次の役員がなかなか成り手がおらんもんですから、これまで、はたから応援しておっただけで、中に入ると大変なんだなというようなことがようやく分かったといいますか、そんなことを日々感じておるような状況でございます。

確かに重たいテーマではあるんですけども、日本全国の自治体の中でもいろんな取組をやっているケースがあるやに聞いていますので、ぜひ地元の我々と一緒に汗を流してもらえんかなというようなことを思っております。重たいテーマではございますが、一緒にになって取り組んでいただけんかなというようなことでよろしくお願ひしたいと思います。

【紙谷農林水産局長】

医王山地区をはじめとする中山間地域における農地や水路、農道などの農業用施設の整備に係る地元負担率ということで、これはなかなか担い手が不足しているとか、地域的な問題もあるということもございまして、これらの整備に係る地元負担率につきましては、地域性を考慮いたしまして、市内の平坦地よりも軽減をしているところでございます。そのため、今のところ地元負担率のさらなる引下げ等新たな制度の増設ということは考えておりません。

ただ、本市といたしましては、これまで中山間地域に農地を維持するため、先ほど東浅川地区でもご説明をさせていただきました国の多面的機能支払交付金などの制度を活用するとともに、ともかく新規就農者が入ってほしいということもございまして、耕作放棄地を農地として活用するための基盤整備等への支援を行っているところでございまして、これも東浅川と同じで大変恐縮でございますが、まずはこれらの制度の活用とともにご検討いただければと考えております。

また、本市におきましては令和元年度に、これは本市独自にでございますけれども、にぎわいと活力ある美しい中山間地域の再興に向けて、中山間地域活性化計画を策定しているところでございます。今年度はこの計画に基づきまして、いおう里山マルシェの開

催費に支援をさせていただいているところでございます。

こういったイベントは非常に大事だと思います。先ほど来申し上げておりますが、都市と農村の交流、そういった意味合いでもマルシェというようなイベントというのは非常に大事だと考えておりまして、市といたしましても、これらのイベントの開催に支援をさせていただきたいと考えておりますし、ご要望でございました農村型地域運営組織、これ農村RMOということでございますけれども、一義的には県が窓口ということではございますけれども、市といたしましても、直接やはり地元の方と関われるということをございます。そういう意味で、積極的に協力をしてまいりたい。地域の実情を踏まえて、そういった制度についても周知してまいりたいと考えております。

【村山市長】

ここでは完全な回答というのは難しかったというような認識だと思っています。また、様々な提案をいただいて、そのことが他地域に与える影響もあるかと思いますので、そのことも十分考えながら検討を進めていきたいと思っております。

(4) 質疑応答、意見交換

【内川校下町会連合会】

先ほどご回答いただきました補助制度の趣旨からすると、ごもっともだと思っておりまし、それを越えていろいろご配慮いただいておることも感謝しております。それについては非常にありがたいと思っています。

ただ、私たちがもう一つ使わせていただいております特認制度も市のほうで制定されたものでございます。この特認制度を有効活用するという観点からも、ぜひ考えの中に加えていただきたいなと思っています。

今、金沢市の教育委員会で不登校のことが大変大きな問題になっておりますが、この不登校の対策のこととこの特認制度のつながりも非常に大きなものがあると考えております。

もう一つ、もうちょっと大きな観点で申しますと、市のほうで検討が進められております通学区域の見直しの件なんですが、先ほどから話題になっています中山間地全体の保全のことと通学区域の見直しというものもどのように考えているかというのもぜひご検討

の中に入れていただきたい。

例えば、子供はどんどんいなくなつて、若い人がいなくなつていくというのがこの地域の特徴であります。何もしなければ寂れしていくというのは全国のどこの地区でもはつきりしていることがあります。そのことについてどう対応していくかというのも、先ほどの質問にも必ずどこかでつながっている問題だと思っておりますので、ぜひ中山間地のつながりと、今各地区から出てきた課題の問題とつながっているところで総合的に考えた上でご判断をいただけたらと思っております。

【村山市長】

教育委員会のほうに伝えたいと思います。ただ、中山間地域が同様に抱える課題というのが必ずしも解決できない課題かというと、前に赴任した地域の香川大学で先生をしておりましたが、そこで一つ異例の事態が起きました。離島の学校で最後の中学生もいなくなつて休校した後に、瀬戸内国際芸術祭があつて島の魅力が高まり、そしてそこにかつていた40代ぐらいの方が戻ってきて学校を再興していって、今、小中学校が旧耐震になったので建て替えをして、そこにまた移住者が増えてきて、そこの15ある町会のうちの9つは町会長が全て移住者というような状況になりながら、保育所も学校の中に併設して、保育所の待機児童問題が起きたというようなところの学校の復活事例もありました。

一つの鍵は、移住者でもあり、もともといたつながりのあるUターン者がいた中での移住が進んできたということ、さらには島の魅力をうまく伝えることができたということ、そんなところが成功事例だと思っています。瀬戸内海の高松市の男木島という島です。

逆に言うと、高松港から40分の男木島はそういう形になりましたけれども、その途中に寄る女木島という島は、高松港から20分ですけれども、そういった事態にはならなかつたところもありまして、それが一つのヒントになるかなと思っています。

不登校特例校を今学びの多様化学校という形でやりますけれども、不登校の子たちにとっては様々な学習環境ができるというように思います。学校の中で教室に入らずに学ぶという形もありますし、特例校に行く子たちもいると思います。様々な制度を使っていきながら、今、不登校の子たちが増えてくる状況は、学びの環境を継続するという意味で改善していきたいと思っています。

もう一つの中山間地域という事例の中では、男木島の話をしましたけれども、金沢ならではの地域資源として、大学生がたくさんいるということ、これをどのように生かしていく

くかということも大事だと思っています。

ということも考えながら、それぞれの地域とも話をしていくべきだと思っています。

【湯涌校下町会連合会】

内川校下の発表がありましたけど、現状と課題の後段にあります待機児童というところで、地域で人員を確保し公民館等を待機場所にできないか、場所と資金について可能性を検討していますとある、ここのことなんんですけど、実際、学校ではそれをもう見ておれなくて、例えば公民館に中学生とかのバス待ちの生徒を預かることをしようとすると、まずそういう部屋を確保して、学校の先生がそこに来ることはあんまりできないようなので、そこで見守る人をどうするかとか、その一角の部屋をそれ用に改装するための費用ですか、あるいは空調とか電気とかガスとか、それなりの費用とか、それはその部屋を確保するための改装費みたいなものとか、そんなものもまず、人とかそういう支援ができないんだろうかというのが1点と。

もう一つが、東浅川地区でありましたとおり、湯涌福光線の開通を想定とした道の駅ですけど、湯涌みどりの里はそういうときが来たとき、あるいは現状での道の駅の候補地としてはなり得るんでしょうか。

【紙谷農林水産局長】

湯涌福光線の開通を想定した道の駅のことでございますけれども、先ほどありました湯涌みどりの里のところにできないかというご提案でございました。

今のところそういう計画はございません。まずは湯涌みどりの里、先ほど来申し上げていますとおり、都市と農村の交流ということがその目的でございますので、まず地元の方々と相談しながらその有効活用、多くの方に利用していただくことを市としても検討してまいりたいと思っております。

繰り返しになりますけれども、道の駅というのはまた別の要素になりますので、このことにつきましては、まだ湯涌福光線というのが開通していない計画の段階でございますので、その開通後、交流人口が増えるということも見込まれますことから、そこを含めて必要性について引き続き勉強させていただきたいと考えております。

【村山市長】

先ほどの公民館の事例については、教育委員会のほうからお答えさせていただきたいと思いますけれども、内川の特認制度の関係であるので、どういったことがあるかということ、かなり慎重に検討しなければならない課題だと思っております。

みどりの里については、まず今の段階で活用していく方法を考えることが大事だと思っています。それによって、活用を有効にしていくということが大事だと思っています。

一方で、金沢、福光、南砺のほうの連絡道路についてですけれども、先般、また期成同盟会を行ってきました。その中で申し上げたことですけれども、この期成同盟会をつくつてからもう25年たったという中で、このような動きというのはちょっと遅いんじゃないかなというようにも思っていますし、その中では、来賓の国会議員の方々もいろんな党から来られていたということは、こういった少数与党政権になったとしても必要な道路は必要ということだと把握をいたしました。これから国に向けて道路の整備に向けての要望を強めていきたいと思っています。

【犀川地区町会連合会】

犀川地区でも耕作放棄地というのがたくさんあります、私個人的にそれを何とかならないかなと考えている者一人なんですけれども。

昨年、羽咋のJA主催で、自然栽培の農業塾に通わせていただきまして、農業をやる上でも何か特徴のある農業をやらないと活性化できないのかなと思っていまして、ユーチューブでも見ていただければいろいろ載っているんですけども、自然栽培で作った野菜というのは非常においしくてエネルギー価値もありますし、アレルギーを持っている子供が普通の野菜だと駄目なんですけど、自然栽培で作った野菜だと全然食べられるとか、そういう事例も載っております。一つそういうものに補助できるようなこともちょっと検討いただければいいかなと思っています。

【紙谷農林水産局長】

自然栽培の農法ということで、健康志向の中、といった栽培というのは非常に大事だと思っております。

市といたしましても、無農薬での栽培ということで支援も行っていますので、そういった中でまたそういう取組というか、できることができればまたご連絡いただければ対応したいと思っています。やはり自然栽培もそうですし、農業といいますと、やはり実際に、

収益があればおのずと担い手というのは育ってくるかと思います。金沢でいいますと、例えばスイカであったり、サツマイモであったり、そういったところは収益もあるということで、多くの担い手というのが育ってきております。

金沢には中山間地もありますし、砂丘地もありますし、平坦地もありますし、そういう意味では全国的に珍しいといいますか、様々な多様な地区を持っているということで、それぞれその地区の特性といいますか、良さがあろうかと思います。

今ほど、砂丘地のお話をさせていただきましたけれども、中山間地ならではの良さというのもあろうかと思います。そういう強みを生かすことで、例えば農業をしてみようかなという方が増えてくれればいいのではないかなど。そういう中で、今ご提案がありました自然栽培というのも一つのヒントかなと思っております。

我々とすれば、中山間地域の活性化、これは本当に全国的な課題でもございますし、本当に重く難しい課題であるとは思っておりますけれども、一つ一つできることから対応したいと思っておりますので、またいろんなご意見いただければと考えております。

(5) 市長まとめ

【村山市長】

皆様、長時間にわたりましてご議論をいただき、そしてご意見をいただきましてありがとうございました。

各地区の課題ではありましたけれども、それぞれ例えば空き家であったり、耕作放棄地であったり、他の地区でも同じような問題を抱えているというところが多かったかと思っています。

金沢の多様性を生んでいることの一つが、他の都市とはまた違って、中山間地域を有しているということが非常に大きな特徴だと思っています。

また、石川県内の他の市町と比べての大きな特徴としては、そういう地域を人口46万の都市の中で抱えているということ、これは他の市と比べても大きなメリットになると思っています。というのは、先ほどみどりの里のように都市と農村の交流の拠点施設があり、交流するチャンスがある。金沢市として全体で中山間地域を守っていこうという動きができることが一つの大きな特徴であろうと思いますし、またもう一つの大きな特徴としては、多くの学生を抱えているということ。学生の学びの場としてフィールドワークを行うことができる。全国のほかの地域で起こつてくる、これからも深刻化する中山間地域の問

題を学生が身近に知ることができる、これが大きな特徴の一つであろうと思っています。

昨今、二地域居住という概念が唱えられるようになってきました。これは、能登半島地震で能登と金沢との二地域という関係もあり得ると思いますけれども、その地域に居住をしなくとも定期的に地域に帰っていく、あるいは地域との結びつきを持つということ、これが一つのヒントになっていくとも思っていますし、学生の時代に中山間地域との関わりを持っていくということ、これがひょっとしたら将来もその地域と結びつくことができる可能性もあると思っています。

地域によっては、大学のゼミやサークルとの間でつながっている地域もありますが、そうすると、ゼミはその先生が辞めない限りはずつと続いていく。そして、サークルもずつと続いていくということで、学生さんが卒業したとしても関係が続していくというようなことができると思っています。

これから大学と地域との関わりを強くしていくことは一つの解決策になると思っていますし、金沢のこうした多様性を将来も引き続き維持していくためにも大事な課題であると思っています。

改めて、今日様々な課題を聞かせていただいたことに感謝を申し上げて、私からの締めくくりのまとめのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。